



シリーズ 企業訪問

株式会社 フミン

～「世のため、人のために」を経営理念に
グローバルな活躍を続ける企業～

企業概要

代表取締役：八木澤勝夫

T E L : 024-544-0223

所在地：福島市郷野目字上21

F A X : 024-545-0620

資本金：1,000万円

従業員：4人

U R L : <http://www.fumin.jp>

創業：昭和53年11月

事業概要：ガラスコーティング剤卸売



代表取締役

八木澤勝夫 (やぎさわ かつお)

フミンは、10年ほど前にそれまでの医薬品卸売業から農業用資材・環境対策資材の製造販売、そして断熱効果のあるガラスコーティング事業へと大幅な事業転換に成功した成長企業である。そこで今回は、八木澤社長にグローバルな展開により急成長を続けている経営内容についてお聞きした。

● 創業についてお聞かせ下さい。

昭和53年11月、医薬品卸売業「福島沢井」として創業いたしました。その後、深海の珪藻土けいそうどに含まれる海洋性フミン物質に浄化作用や消臭作用があることに着目し、農業用資材・環境対策資材の製造販売業へと事業転換を果たしました。そして、創業25周年の平成15年にフミン物質にちなんで社名を「フミン」へと変更いたしました。

● 経営理念についてお聞かせ下さい。

経営理念は、「世のため、人のために」であり、決して自社の利益を上げることを最大の目標とはいたしておりません。自社の利益だけを求めて

いるようでは、誰の応援も得られません。このため、当社の存在意義は、「社会に貢献すること」にあると捉え、省エネルギーやCO₂削減、環境対策資材製造といった環境ビジネスに取り組んでいます。しかしながら、こうした環境ビジネスにおいては、社会貢献を目標とする多くの企業が市場に参入しなければ、全世界的な環境問題を解決することは困難なため、私どもは当社と同じ社会的使命を持つ多くの企業と連携していくことを目指しています。そのためにも、連携する企業と信頼関係を築くことが第一であると考え、自社の持つ情報を開示することを信条としています。

また、ガラスコーティングの施工をアウトソーシングすることにより、雇用の創出にも取り組んでいます。当社のスプレーガンを使えば、誰でも簡単に塗装することができ、代理店契約を結んでいるNPO法人では、実際に障害者の方でも研修を受けて施工に携わっていることから、当社のビジネススタイルは省エネルギーと雇用創出を同時に実現できる新しいモデルであると考えております。

● 事業内容についてお聞かせ下さい。

断熱効果のあるガラスコーティング「フミンコーティング」と土地改良材である「MR-X」を取り扱っており、売上高で見ると、「フミンコーティング」が約9割、「MR-X」が約1割となっています。

「フミンコーティング」は、「アンチモンドープ酸化スズ」という断熱効果のある金属酸化物を主成分としており、赤外線だけでなく、紫外線も吸収するので、ビルや住宅の窓ガラスに塗装すれば、太陽光による室内温度の上昇を2～5度抑えることができ、冷房費の節約にも繋がります。また、一般に普及している遮熱ガラスは、太陽光を反射させる方式がほとんどで、反射した光の熱が外気温を上昇させる「ヒートアイランド現象」を引き起こす原因ともなっていますが、「フミンコーティング」は赤外線や紫外線を反射させずに吸収するため、「ヒートアイランド現象」の発生を抑制する効果も見込めます。

当社は、国内において「フミンコーティング」の施工はあまり手がけておりません。代理店契約を結んだ企業に施工を委託し、当社は特許の使用料を上乗せした「フミンコーティング」を代理店に販売することで収入を得ていることとなります。

一方、「MR-X」は、浄化・消臭作用のある海洋性フミン物質を主成分とする土地改良材で、

最初は悪臭対策のために製造していましたが、鉾山から流れ出るカドミウムによる米の汚染防止に使用されたのをきっかけに、無農薬栽培の稲作向けにも製造するようになりました。そして、平成12年には、稲作や桃などの農作物の育成促進や糖度アップ効果により、JA 全農福島の指定農業用資材に認定されています。

● ビジネスの転機についてお聞かせください。

一つには、病気で倒れた時に残りの人生は好きなことに使いたいと考え、平成12年に医薬品の卸売りを廃業し、以前から関心のあった環境に関わる新事業や新製品開発に取り組んで大胆な業種転換を実践したことです。

もう一つには、「フミンコーティング」をスプレーガンで均一の厚さに塗装できず、考えあぐねていた際、車のフロントガラスに付着した水滴が面状にガラスを覆うのをヒントにして、噴射口の直径を大きくするなど、「フミンコーティング」を均一の厚さに塗装できるようスプレーガンの改造に成功したことです。

そして三つ目は、平成18年に東北経済産業局から東京証券取引所で「フミンコーティング」について発表してみないかとのお誘いがあったことです。そして、この発表内容がシンガポールに伝わったことから、同国政府におけるプレゼン



赤外線ライトによる照射実験
左：46.7℃（施工ガラス）、右：74.8℃（未施工ガラス）



MR-X を使用した桃の糖度実験
左：MR-X 使用により糖度が増して水に沈む桃
右：水に浮く桃（MR-X 未使用）

テーションや展示会出展の機会を得ることとなり、同国で最高ランクの省エネルギー建築物に与えられる「グリーンマーク プラチナ2009」を受賞するなど、シンガポールに進出する足がかりとなりました。

● 今後の市場開拓についてお聞かせ下さい。

「フミンコーティング」は、スプレーガンを使ってガラス面に均一の塗膜を形成できるようになり、平成19年に日本、平成20年にはシンガポールでそれぞれ特許を取得しております。シンガポールでは、平成19年に現地法人を設立し、「フミンコーティング」の販売だけでなく、施工も手がけ、施工実績は約30件に上っています。

また、海外の環境技術展示会に積極的に出展し、シンガポール以外の国にも「フミンコーティング」についてPRしていることから、インドネシアのショッピングセンターで採用されただけでなく、タイや香港、台湾でも既に採用が決まっている案件があります。さらに、EU、アメリカ、中国、インド、オーストラリアなど10カ国で特許を出願中でもあり、今後はシンガポール以外の国へも本格的に進出していくつもりです。

一方で、製品市場の開拓についていえば、電気自動車の窓ガラスに応用できないか検討を始めています。電気自動車は電気を動力としていることから、車内の空調に使用する電力量を抑制する必



「フミンコーティング」の施工風景

要があるため、断熱効果のある「フミンコーティング」の需要があるのではないかと考えております。

● 最後に、今後の展望についてお聞かせ下さい。

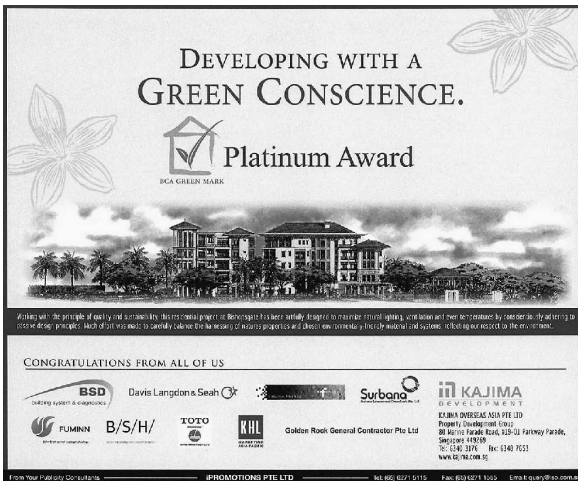
私は、これからは知財の時代であると考えています。グローバル化が進展する中で、資源のほとんどを海外に依存している日本においては、特許という知財はことさら重要であるといえます。当社は、この特許を礎に福島に本社を置きながらも、引き続き積極的な海外進出を展開し、世界各国の省エネルギーやCO₂削減に貢献するとともに、雇用創出にも寄与することを目指します。

また、環境ビジネスに対して志のある多くの企業が当社と手を組み、それぞれの得意分野を分け合うことにより、世界規模の社会貢献を実現していきたいと考えています。

【インタビューひとこと】

社長の「世のため、人のために」という思いと環境に対する時代の要請が見事にマッチングした結果が「フミンコーティング」に結実したのだと感じた。省エネルギーやCO₂削減は、世界各国にとって中長期的な共通の課題となっていることを考えれば、「フミンコーティング」の市場は世界規模で急速に拡大していく予感がある。そしてこの結果として、社長が掲げる環境ビジネスと雇用創出を通じた社会貢献が実現できるものと期待したい。

(担当：和田)



シンガポールで「グリーンマーク プラチナ2009」受賞